

一筆啓上

作左通信



第九十九号 令和元年十一月十五日(金) 発行

地域とともに子供を育てる

六ツ美西部小学校 校長 山本則夫

「明日は、親子の微笑ましい姿

が見られますよ。」帰り支度をし

た私に、教頭先生が微笑む。その

言葉通り、令和元年十月二十日

は、私にとって忘れられない一

日となった。前日の雨が空気を

洗い流し、澄み切った秋晴れの

もと「学区ふれあいウォーク祭

り」は開催された。

学区のいたるところで、心の

ふれあう場面に遭遇することが

できた。ポイントを目指して親

子で、友達同士で、複数の家族で



と、参加の仕方は様々であった

が、出会う誰もが笑顔であった。

参加者を迎える十一カ所のポ

イント地点には、それぞれ工夫

を凝らした催し物が用意されて

おり、子供も大人も夢中であっ

た。スタンプを押してもらい、景

品のお菓子を嬉しそうに抱える

子供の姿がなんとも微笑ましい。

さて、近年、学校におけるいじ

めや不登校の問題に加え、学校

外においても、これまで考えら

れなかったような事案が発生し

ている。また、本来、教育の原点

ともいうべき家庭において、児

童虐待などの様々な問題が連日

報道されている。こうした問題

の背景として、少子化や核家族

化、情報化等の経済社会の変化

による人間関係の希薄化や、地

域における地縁的なつながりの

希薄化などが指摘されている。

本校学区に目を転じてみると、

次の数字に安心させられる。「地

域の行事に参加していますか？」

というアンケート調査に対し、

本校六年生の「参加している」と

回答した児童は87%であった。

愛知県の70%、全国の67%

を大きく上回り、いかに地域と

の繋がりが深いかわかる。

子供たちの教育は学校だけで

完結するものではない。変化の

激しいこの時代にあつては、子

供たちに対して、学校、保護者、

地域が教育目標を共有して、子

供の教育に取り組んでいく必要

がある。私の掲げる目標の一つ

は、「六ツ美西部学区を愛し、誇

りに思う子供の育成」である。

本校の児童は、素晴らしい自

然環境と地域の人に恵まれ、の

びのびと素直に成長している。

子供たちが、いつの日か親とな

り、我が子の手を取り参加でき

る「学区ふれあいウォーク祭り」

がいつまでも続くことを願わず

にはいられない。